

## もの言う牧師のエッセー 第249話

## 「イチロー幽霊」

メジャー史上30人目の通算3000安打を達成した、マーリンズのイチロー外野手への賛辞が止まない。昨シーズンは自己最低の成績に終わり、開幕時点では今季中の記録達成は微妙かと思われたが、今季メジャー現役最年長である42歳の彼は好調を維持している。

その理由について、かつてシアトル・マリナーズを指揮したルー・ピネラ氏は、イチローのように打席に入る前、入念にストレッチを行う選手は見たことがなかったと話し、「アメリカでは、過酷な春季キャンプを終え、シーズンが始まってしまえば試合前にチームでストレッチをする程度。後はプレーするだけ。それをイチロー違うレベルに押し上げた。」と述べている。このことは多くの選手や関係者の間で語り草になっており、試合前に他の選手たちが雑談やスマートフォンに講じている傍らで、1人で横になり長時間のストレッチを繰り返し、記者からの取材に答える際にも動きを止めない。

彼の愛工大名電高校時代の監督である中村豪氏は、イチローとの初めての出会いを「170センチ、55キロ、ヒョロヒョロの体格」だったと述懐する。しかし新人離れしたミートの巧さ、鋭いスイング、130キロの投球、走らせても速いので、一年生でレギュラーの座を獲得し中村氏を唸らせた。いっばうで練習は皆と同じメニューをこなし、他の選手に比べて熱心というほどでもなかったのに、これが天性の素質かと中村氏は考えていたという。しかしある日、深夜のグラウンドの片隅に幽霊が出るとの噂が流れ、彼が恐る恐る確かめに行ったところ、そこで彼が目にしたのは暗闇の中で黙々と素振りに励むイチローであった。何のことはない彼は今も昔も努力の人であり、さらにそれを継続できる人なのだ。

イエスの有名な「種蒔きのたとえ話」には、“4種類の地”に種が蒔かれ、実を結ばない悪い3つの地と、実を結ぶ良い一つの地が描かれる。その意味は

**「良い地に落ちたのは、みことばを聞いた後、これを正しい良い心でしっかりと守り、**

**耐え忍んで実を結ぶに至る人たちのことである。」**      **ルカの福音書8章15節：口語訳、**

とあるように、努力をして実を結ぶ人と同時に、すぐにやめる人や中途半端な人、努力を嫌う人が大勢いることを示す。ちなみに“種”は福音（ゴスペル）を意味しイエスによって今も蒔かれているが、イエスを信じたらそれで終わりなのではない。彼に従い努力し続けること。これが実をならせる正しい信仰である。

2016-8-18

